令和５年度第２回
新庄市総合教育会議会議録

開催月日	令和6年1月31日（水）
開催場所	明倫学園PCルーム
出席者	市長、高野博教育長、栗田正人委員、阿部浩悦委員、斉藤浩昭委員、奥山京子委員
欠席者	なし
事務局	渡辺政紀教育次長兼教育総務課長、杉沼一史学校教育課長、伊藤幸枝社会教育課長、鈴木英樹明倫学園校長、三原学校教育課主幹、齋藤教育総務主査、鈴木教育総務主査、八鍬ふるさと歴史センター所長、千川原主事
議事の大要	

午後3時00分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

これからの義務教育学校について

（市長）「これからの義務教育学校について」学校教育課より説明していただきます。

（学校教育課長）本日の協議案件でありますこれからの義務教育学校について、資料に基づきながら説明させていただきます。

資料に沿って説明

（市長）それでは、義務教育学校の成果と課題を受けて、これからの義務教育学校について皆さまと意見交換をさせていただきたいと考えております。成果と課題に分けて、皆さんからご意見をお聞きしたいと思います。はじめに、本日の授業参観での子ども達の様子を見て、委員の皆さんと教育長より感想を伺いたいと思います。後程、課題点や今後についてお尋ねいたします。それでは、本日の感想と義務教育学校へのご意見を栗田委員よりお願いします。先ほどの資料による説明には良い点が多かったかと思いますが、ぜひ皆さんに忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

（栗田委員）本日の授業参観では、6年生と8年生の異学年交流の授業がありましたが、このような事ができるのは義務教育学校ならではの授業だなと思いました。授業中の子ども達の表情も明るく、人間関係の良さが、義務教育学校のメリットになるのではないかと思ったところです。それから、校長先生より縦割り清掃のお話がありましたが､1年生から7年生までの縦割り清掃とすることで、7年生へのリーダー経験の機会を与えているそうで、学校生活についても良く考えられているなと

感じました。そのような点で、義務教育学校のカリキュラムである4-3-2ブロック制は非常に大事なことであると思いました。また、教科教室で授業をしていた先生に、教科教室についての感想を聞いたところ、非常に使いやすいというお話がありました。先生自身が移動しなくても、子ども達が集まってくるため、そこが非常に楽しい点だと仰っていました。以前、教科教室について大学の先生から研修を受けた際に、教科教室の良いところは、ただ単に教室に様々な教材がそろっているだけではなく、子ども達が自ら足を運んで教科教室に向かうことでその教科の勉強をするという気持ちができるため、子ども達の勉強への気持ちを大事にすることができるというメリットがあるというお話を聞きました。そういう点では、明倫学園は、教科教室をよく使ってくださっているなと思っていました。また、国語の教科教室には、様々な辞書や参考資料などが並べてありました。子ども達がすぐ手に取れるようになっているところも良い点であると思いました。

（市長）ありがとうございました。斉藤委員、お願いします。

（斉藤委員）はじめに、義務教育学校のブロック制ということで、幼稚園から上がったばかりの1年生から次年度には高校生となる9年生までが一堂に会しているところのメリットは、中期ブロックの5・6年生や、後期ブロックの8・9年生が高い意識を持つことができる点にあるのではないかと思います。5・6 年生は元でいう中学生に、8・9 年生は高校生のように見えました。ブロック制によってリーダーをする機会が多いことで、義務教育学校を卒業した後、高校へ入学してからも生かされていくのではないかと思います。また、授業を参観させていただき、子ども達の表情がすごく良いなと感じました。校長先生のお話にもありましたが、1 年生の声が校内に響いていることによって、高学年の生徒は低学年の児童たちへのお手本となるために、暴力行為等をしない意識を持つというようなメリットもあるのではないかと思いました。また、山形新聞に明倫学園の新庄まつり学習の記事を見つけました。地元の方をお呼びして、山車づくりをしている姿が載っておりまして、地元との関わりも非常に盛んに行われていること、子ども達も積極的にそれに関わることによって地元の良さを感じ取っていることをこの記事から感じ取ることができました。明倫学園には、600名を超える児童生徒が在籍しているため、大規模校の中でのメリットや課題が様々あるかと思いますが、それを受けて、これから他の学校にも生かされていくだろうと思いますので、私たちも義務教育学校の課題に真摯に向き合っていかなければいけないなと感じました。

（市長）ありがとうございました。次に、奥山委員お願いします。

（奥山委員）今日の参観を通して、自由な雰囲気がするなと思いました。また、各学年の授業を見て、5・6年生くらいから急に成長しているなと驚きました。義務教育学校のメリットとして挙げられている中1ギャップが見られないということについて、やはり緩やかな3ブロックでの構成と、小学校では交流することができない7・8・9年生と身近に交流しているというのが影響しているのではないかと思います。そのような交流の機会が計画されていて、実践できているのが重要であり、義務教育学校の成果なのかなと思いました。加えて、萩野学園の先生から伺ったお話ですが、1 年生から9年生までを1つの学校で過ごすことで、入学当初の幼かった子達の成長を長く見ることができる点が、先生にとっても嬉しいことだそうです。そして、校長先生のお話の中で小中の教員の違いを聞いて、性質の違う先生方が一緒に話をする機会があるという点では、お互いの良い所や不足

している所を補い合いながら指導に当たることができるため、先生方としても、すごくありがたいことなのではないかと考えました。また、伺いたい点があります。前期・中期ブロックの児童生徒へも一部教科担任制を導入しているとのことでしたが、クラスの中で学力差がある子達もいるかと思うので、複数のクラスに分けて教えるということはしていないのでしょうか。もっと詳しいことを学びたいという子には応用的な授業をするなどをしてみると、興味関心を持ってくれるのではないかと思ったのですが、専門の先生とティームティーチングのような学習があるのか教えていただきたいです。以上です。

（市長）教育委員の皆さまから感想をお聞きした後に質問への回答をお願いしたいと思います。それでは、次に阿部委員お願いします。

（阿部委員）新庄まつりの山車づくりはまだまだこれから勉強の余地があるとは思いますが、ふるさと学習という新庄市のねらいにおいては、見事にはまっている部分があるのだと思います。明倫学区は北辰小学校と沼田小学校の学区からなっているので、歴史的な素材がたくさんあるかと思います。イバラトミヨや旧蚕糸試験場、旧雪調など、歴史的なまちづくりということにおいては、これからふるさとのことを思いながら小中一貫で教育をしていって欲しいなと思います。義務教育学校において、1 番のはじまりは品川だったと以前参加した学習会で聞いたことがあります。現在、学校運営協議会は各校にあるかと思いますが、やはり都会でなければ難しいのではないかと最初の研修会では思っておりました。しかし、本当は新庄という地元を愛する人達が学校運営協議協議会のメンバーとして、自分達が卒業した学校を見守っていくという姿勢が私は一番大事なのではないかと思います。自分の出た母校を、地元の方々とともに、そこで学ぶ子ども達を育てていく姿勢をそれぞれ持つことが、ふるさと学習においては重要であると思います。異学年交流のお話もありましたが、昔は幅広い学年の子ども達が一緒に遊んでいたかと思います。1 番小さい子はできることも少ないので、みんなの後ろをついて行くだけというような、それでもその子が楽しんでいたらそれでもよかったという時代でした。しかし、今は 9 年生が 1 年生の面倒見てあげているというような、まさに理想が叶っているのではないかと思います。高学年になってから、あまり問題行動を起こさなくなっているというのは、先ほどもありましたが小さい子達が見ているからなのだと思います。幅広い学年の交流があることで、高学年の子達へ優しさが生まれて、低学年の子達は高学年の子達に頼るという意識も生まれていきます。頼る・頼られる関係とお互いの立場が、問題行動が起きにくくなることに繋がっていくのではないかと考えております。田舎である新庄だからこそ、ふるさとを大事にしたいと考える子どもを育てていくために、ふるさと学習が重要であり、義務教育学校で 1 年生から 9 年生までの交流の中で、地元のことを少しずつ学ぶことができるのは、大変素晴らしい経験になるのではないかと思います。萩野学園が開校して 9 年、明倫学園が開校して 3 年が経ち、義務教育学校の良い面と悪い面が様々出てきているかと思いますので、皆で協力して対処できるようにしていくのが一番良いのではないかと感じていたところです。

（市長）ありがとうございました。教育長、お願いします。

（教育長）9 年生の姿があることで、低学年の子達は安心感があるのではないかと思います。義務教育学校を卒業する頃の自分の姿を想像しやすく、また、小学校から中学校へ進学する際の環境の変化

がないという状況であることは子ども達にとって非常に重要であるなと感じました。先ほどもありましたが、義務教育学校では自分の教えた児童が成長した姿を実際に見届けることができるため、児童生徒だけではなく、先生方にとっても幸せなことだろうなと思っています。また、明友サロンで9年生が勉強している姿も、低学年の子ども達にとっては見本のような姿であり、将来の自分の姿を想像する機会となって、無言の中の意図的な教育になるのではないかと思っているところです。また、私が最近嬉しく思ったことが、学区外就学の申請について、他県から来て、実際は金山町にお家がある方だったのですが、明倫学園に入るために、明倫学区のアパートを借りる予定だという方がいらっしゃいました。このことを聞いて、明倫学園を通いたい学校だと思ってくれている方がいると感じ、本当に良かったなと思いました。

（市長）ありがとうございました。委員の皆さまから感想をいただきましたが、次に義務教育学校の今後の課題と目指すところについて、ご意見をいただきたいと思います。それでは、栗田先生お願いします

（栗田委員）本日のテーマは「これからの義務教育学校について」ということですが、先ほどの説明の中で、萩野学園と明倫学園は他地区からの視察が非常に多いというお話を聞きました。新聞の報道などでも、これから小中一貫教育校を視野に学校編成をしていくという自治体も出てきていると聞きます。先日の山形新聞の記事では、舟形町が小中一貫教育を視野に考えていると出ていました。それだけ小中一貫教育が注目されているという段階なのだと思いました。しかし、私は義務教育学校、小中一貫教育校の現状についての広報が足りないのではないかと感じています。先日回覧で、小中一貫教育通信がまわってきました。その中の記事はコミュニティスクールについての記事で、読ませていただいたのですが、萩野学園・明倫学園はこれまでの取り組みの中で成果がたくさん挙がっています。中１ギャップの解消や不登校の減少、学力の向上などがあるかと思います。その成果について、萩野学園や明倫学園は、学校だより等で地区内にはお知らせしているかと思いますが、市全体で見ると、そのような情報に接している市民は多くないように思います。これからの新庄市の方針としては、新庄小中も義務教育学校にする流れでいるかと思いますが、そうした流れの中で、他の学区の市民の皆さんにも現在の成果を情報として継続的にお伝えしていく必要があるのではないでしょうか。義務教育学校を新たにもう１校建てるとなると、何十億のお金がかかってくるかと思いますので、市民の皆さんにも共感してもらえるように事前の情報発信が今後必要になってくるだろうと考えております。

（市長）ありがとうございました。次に、斉藤委員お願いします。

（斉藤委員）新庄市の学校教育の重点の中に「地域に根差した学校づくりの推進」がありますが、明倫学園ができる前には、北辰・沼田・明倫の3校があったため、地域との関わりを考えたときに、それぞれの学区で持っている地域の文化や伝統をどのように１つの学校でまとめて子ども達に伝えていくかという話をしていたこともあったかと思います。それぞれの学区の保護者の皆さんが明倫学園に子どもを預けておりますが、保護者の方から見て、各学区の伝統文化がうまく融合されているのか、また、それが保護者の方に伝わっているのか、或いは、地域のご年配の方がどのように捉えているのかという点が気になるところであります。そのような観点で、PTA 活動をどのように行わ

れているかについても併せてお聞かせいただければ大変参考になるかと思います。

（市長）ありがとうございました。それでは、ここで委員の方からの感想でいただいた質問と、課題についての中でいただいたご意見に対して、校長先生からお話を伺いたいと思います。

（鈴木校長）はじめに、奥山委員からあったティームティーチングに関する質問について、明倫学園にはそのような授業ができるだけの人員がおらず、配置が難しいというのが現状です。実現のためには、中学校の教員を各教科１名ずつ増員していただくことが必要になってくるかと思います。昨年度の萩野学園であれば、数学担当の教員の増員もあり、5・6 年生についてはそのような形でできておりましたが、明倫学園の現状では実現は難しいです。しかし、学力向上のために可能であればティームティーチングも実施していきたいと考えております。次に、斉藤委員からあった地域文化の融合については、現状を把握しきれていないところがございます。しかし、この件につきましてはアンケート等により調査をして、どのように進んでいるかの確認をしてまいりたいと考えております。ただ、複数の学区の文化を上手く組み合わせていかなければ、融合が難しいものが出てきます。開校当時の先生方がよく考えてくれているようでしたので、今後はより一層磨いていきたいと思います。また、PTA 活動についてですが、義務教育学校のように小中一貫教育校となり、学校の規模が大きくなると、保護者の皆さんの PTA としての意識や責任感が薄まってしまうという点で、活性化が小規模校に比べて難しくなっているのではないかと思います。PTA 活動に関しては今後の課題であると認識しておりますが、この件については義務教育学校ではなく、大規模校の課題なのではないかと考えておりますので、今後検証して参りたいと思います。

（市長）校長先生のお話しについて、斉藤委員いかがでしょうか。

（斉藤委員）確かに規模が大きくなると、保護者の皆さんも様々な意見を持っていると思いますし、それをまとめていくというのは難しいだろうと感じます。私は八向地区の出身で、児童生徒の数が少なくなっていることを実感しています。その分非常にまとまりがあると思っているので、大規模校にとっては PTA 活動のようなものは課題になっているなと思いました。

（市長）先ほどの栗田先生がおっしゃっていた義務教育学校の成果を継続的に伝える努力が必要ではないかというご意見についてはいかがでしょうか。

（学校教育課長）小中一貫教育通信を定期的に出させていただいておりますが、今まで以上に踏み込んだ形で、具体的な学校紹介などを増やしていかなければならないと考えております。また、マスコミ等での紹介について、他地域の学校が様々挙げられている中で、新庄市についての紹介が少ないのではないかというお声をいただいています。最近では、新聞社の方へ、義務教育学校だからできることがたくさんあるというお話をさせていただいたところです。先日、小学校に寄付をいただいた大谷翔平選手のグローブについても、小学生の児童と中学生の年代の 7 年生 8 年生が一緒にキャッチボールをするなど、義務教育学校だからこそできることをもっと周知していくことで萩野・明倫学区の地域の方だけではなく、新庄市全体で小中一貫教育についてのイメージを持っていただけるのではないかと考えたところでした。

（市長）やはり父兄の方から良い学校だと言っていただくことが１番の周知になるのだと思います。先程のお話を受けて栗田先生から何かございませんか。

（栗田委員）新庄市全体へ義務教育学校で実施していることをもっとアピールしていく必要があると思います。今までやってきた中で、成果を知らない市民がたくさんいるかと思うので、周知を図っていくことが、小中一貫教育のこれからの進展に寄与していくのではないかと思います。

（市長）ありがとうございました。奥山委員の感想と併せて言っていただいた質問への回答に対してと、義務教育学校の課題や今後についてお話をいただければと思います。

（奥山委員）質問をしていた教科の指導については分かりました。新庄市の学校教育の重点の１つに「社会を主体的に生き抜く力を育む学校教育の推進」とありましたが、義務教育学校ではリーダーを経験できる機会が３回あると聞き、自分達の学校の運営に関わることができるというのは主体性を高めるという点でとても良いことだなと思いました。経験の機会がある分、多くの子ども達がリーダーをすることができると思うので、計画を密にしていくことで、より主体的に活動することができるのではないかと思います。また、義務教育学校に期待されることの１つに「子どもたち一人ひとりの興味や関心に基づいたきめ細やかな指導が可能となり、個性や能力を伸ばすことができる」とありますが、今の子どもたちはただ教えられるだけの時間や規制されることを嫌い、自由に行動することを好む子が増えていると聞いたことがあります。そのため、一人ひとりの良さを見るためにも各々がしたいことを自由にさせる時間が必要になってくるのではないかと思います。学力以外の子どもたちの良いところは総合的な学習や生活科などでも見ることができるかと思いますが、明倫学園では学力以外の良さをどのように伸ばそうとしているのか、また、どのように評価しようとしているのかお伺いしたいです。

（鈴木校長）リーダー経験というのは主体性にも関わるお話かと思います。従来の小学校６年生と中学校３年生だと、各学校の最高学年であるため、先生方も失敗させられないという思いを持って指導に当たるのではないかと思います。今、私から先生方に言っているのは、義務教育学校で３回あるリーダー経験の機会の１回目である４年生の時は、失敗も経験になるのだからまずは自分たちでやらせてみたら良いだろうということです。１度失敗しても、経験を通して学び、次に生かすことができたら良いので、あまり手をかけすぎないようにしましょうと話をしております。このように、学校では失敗をしても良いという雰囲気づくりを行っているところです。この雰囲気が良かったのか、これが一人ひとりの良さを伸ばすために行っているというお答えになるか分かりませんが、先日４年生の女の子４人が校長室に来まして、「新庄小学校には髪の毛を染めている子がいて、それが認められているそうですが、明倫学園ではどうなのでしょうか。認めていただくことはできますか」という話をもらいました。私もその意見を受け止めて、「学校の規則があるのでそれを確認します。生徒会に相談等もして回答しますので待っていてください」と話をして納得してもらいました。また、昨年の運動会が終わってすぐの頃には、３年生の女の子２人が校長室に来ました。内容は「運動会が終わって合唱祭まで２週間足らずしかないので、合唱の仕上げが上手くいくか分からないため、音楽の授業を増やしてください」というもので、その際要望書とともに全員の署名を書

いて持ってきてくれました。要望書を受け取り、すぐに教頭・教務の先生方に相談をして時間割の調整を行いました。子どもたち一人ひとりの考えを受け入れ、それを生かす雰囲気を作っていくことで皆が伸び伸びと活動できるのではないかと思います。もちろん意見をもらっても全てを許可することはできず、難しいものも多いのですが、子どもたちのやれること・やりたいことをやらせてみるということをモットーにして、それが皆に感じ取ってもらえればと思っています。今後ますますこのような事例が増えてくるようになるのではないかと思います。髪型も自由度が高くなっておりますが、児童生徒が自分たちで決めたことであれば良いのではないかと考えております。

（市長）話の中であった髪色について結論は出ているのでしょうか。

（鈴木校長）髪型については5年生以上が話し合いをして決めたルールでしたが、今回の要望があったことで、4年生でも話し合いをしてもらうこととなりました。今年度中に結論を出せるかと思いますが、現在はまだ出ておりません。

（市長）他にご意見やご質問ありますでしょうか。

（奥山委員）質問ではありませんが、子どもたちがそのように動いているという話を聞いてすごく嬉しく思います。

（鈴木校長）署名を持ってきた時は驚きましたが、子ども達からの要望を無下にしてはいけないと思い、要望をもらってすぐに教頭・教務の先生方に相談したところ、時間割を組み直してくれました。組み直した時間割を校長室に来てくれた児童に見せたところ、「校長先生ありがとうございました」とお礼の言葉をもらいました。子ども達からの要望を共有してすぐに動いてくれる先生方がいるから要望を叶えることができました。子ども達も、自分達が意見を出せば通るということを学んでいってほしいと思っています。

（市長）ありがとうございました。次に、阿部委員お願いします。

（阿部委員）萩野学園、明倫学園は義務教育学校となったときに校歌が新しくなったかと思います。しかし、地域に住んでいる方々は昔の校歌しか歌えません。教育委員として入学式、卒業式に出席しておりますが、新しい校歌はまだ聞き慣れないなと感じます。何年、何十年と歌い継がれることで校歌が地域の文化になっていくと思っています。校歌をはじめとした母校愛が、郷土やふるさとを愛する心に繋がっていると思うので、ぜひ児童生徒の子ども達には母校の校歌を覚えて歌い継いでほしいなと考えています。また、校歌の作詞・作曲をしたのは誰なのか知ることも、子ども達が誇りを持って歌い継ぐための１つの要因になると思うので、そのような知識を得る機会を作っていっていただければ良いなと思います。

（市長）ありがとうございました。時代の変遷の中で、昔からある校歌などの歌詞は時代にそぐわなくなっているのかなという思いがあります。次に、教育長お願いします。

（教育長）今年度の明倫学園の運動会前に数日雨が続いていて、開催をするかしないか話をしていたそうです。小学校の先生であれば、教員同士で話し合い、中止または延期となっていたと思います。しかし、中学校の先生方が各組の幹部を呼んで相談し、生徒の意見を尊重して開催に至ったそうです。小学校と中学校の先生の意識の違いがあるのだろうと私は思います。児童生徒だけでなく、先生の間でも、経験を通して学ぶことができるというのは非常に良いことだと思いました。今後も児童生徒、先生、保護者の方が学んでいくことで新たな明倫学園の文化ができていくのではないかと考えております。先程校歌について話がありましたが、まだ新しい校歌を聞き慣れていないため、前の校歌の方が良かったと言う方もいるようですが、少しずつ馴染んでいくことを期待しています。さて、これからの義務教育学校について、中学校から小学校への乗り入れの話は多く出ていますが、私は小学校から中学校への乗り入れも考えることが必要だろうと思います。例えば、数学等の教科でのティームティーチングについて、人事的な問題に加え、県の方針の変更などもあり、現在の明倫学園ではできないという話でしたが、教育行政を預かる私としては皆さんに大変申し訳ないと考えております。ただ、小学校から中学校への乗り入れは、小学校の先生も中学校の授業をしてほしいということではなく、副担当のような形で入ってもらうことを考えていく必要があるのではないかということです。中学校の先生が小学校の授業をする教科担任制によって、中学校の先生の授業数が増えて小学校の先生の授業数が減ることで、小学校の先生だけが得をしているのではないかというご意見もあるようでしたので、そのような点についても考えていくべきだと思います。また、私は先週品川での全国小中一貫サミットへ参加して学校訪問もさせていただいたのですが、今までとは異なる教育課程や授業スタイルをたくさん考えていました。地域の方やALTに協力してもらう、先生方の中でやりくりをするなど工夫をしているようでした。そのような点で、新庄市内の義務教育学校2校の、人的配置がないために難しいという現状は今後人員が減ってしまうと衰退していくことに繋がってしまうので、考えていかなければならないと思います。それから、義務教育学校と学校運営協議会・コミュニティスクールはセットであると感じました。地域の方々からもっと授業の中に入ってもらうなどして、コミュニティスクールの中の協働をどんどん進めていってほしいなと思います。もともと地域コミュニティのあり方については考えていく必要があると感じていたので、できないというのではなく、自分たちでできることを探して進めていくことが新庄市の課題であるなと思います。また、高校受験のために地域の数学や英語を教えられる方に来てもらって、放課後に勉強会を開催するので希望者は参加してくださいという内容を掲示して呼びかけを行っている学校もありました。そのようにコミュニティと一緒に活動をしていくことが大事であるということを全国小中一貫サミットで感じてきました。

（市長）ありがとうございました。大切な児童生徒をお預かりしている学校で、どのように時間を過ごしてもらうかということが地域と我々の大きな課題であり、その時間を有効に活用して将来に繋げていくことが我々の責任であると思っております。これからも皆さま方からご意見をいただきながら前進してまいりたいと考えております。義務教育学校について、良い部分と悪い部分があり、現在は良いところが多く見えているように感じます。小学校から中学校までが1つの学校になることでリセットされる機会がないのではないかなどという考えを持っている方もいらっしゃいます。今後出てくる課題については皆さんからいただいたご意見を含めて進めてまいりたいと思っています。本日はありがとうございました。

4. その他

なし

５．開会

午後 4 時 01 分閉会する。